

社会資本総合整備計画 事後評価書												令和06年11月21日
計画の名称	新大平下駅前地区											
計画の期間	平成26年度 ～ 平成30年度（5年間）									重点配分対象の該当		
交付対象	栃木市											
計画の目標	太平山に代表される豊かな自然環境と広大な田園景観を有する大平地域は、伝統的農業を基幹産業としながらも、大手家電メーカーや大手自動車メーカーの操業により、自立性の高い都市として発展してきた。 しかし、都市基盤整備の遅れやモータリゼーションの進展に伴う大規模商業施設の郊外立地等により、中心市街地の空洞化が進行している。 さらに、住宅が密集している地区であるが、道路は狭隘で袋路も多く、公園等のオープンスペースが不足している。 中心市街地の再生には土地区画整理事業による整備が必要との認識に立ち、平成19年には新大平下駅前地区まちづくり推進協議会が設立され、行政、地元が一体となった取り組みの熟度も非常に高い。 このような中、都市再生整備計画事業及び都市再生区画整理事業による駅周辺の環境整備を図り、地域住民の利便性の向上と大平地域の顔としてふさわしい快適でにぎわいのある市街地を形成を目指す。											
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	1,662	A	1,662	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / （A＋B＋C＋D）	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H25当初	H28末	H30末
1	新大平下駅西口への通行量を1,484人/日（H25）から2,000人/日（H30）に増加 新大平下駅西口周辺へのアクセス道路の通行量を計る。	1484人/日	1700人/日	2000人/日
2	地区内の狭隘道路の割合を60％（H25）から30％（H30）に減少する。 地区内道路の総延長のうち、幅員4m未満の道路の解消された割合を測定する。	60%	50%	30%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	区画	一般	栃木市	直接	栃木市	区道	改築	新大平下駅前第2地区（ （都）大平町役場通り外 ）	区画整理 A = 5.3 h a	栃木市		■	■	■	■	727		-
											小計						727		
都市再生整備計画事業	A10-002	都市再生	一般	栃木市	直接	栃木市	-	-	新大平下駅前地区都市再 生整備計画事業	道路、公園、土地区画整理事業等	栃木市	■	■	■	■	■	304		-
											小計						304		
市街地整備事業	A13-003	都再区画	一般	栃木市	直接	栃木市	-	-	土地区画整理事業（新大 平下駅前第2地区）	都市再生区画整理事業（ A = 5.3ha ）	栃木市		■	■	■	■	631		-
											小計						631		
											合計						1,662		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業策定主体（市街地整備課）にて評価を実施	令和3年度
	公表の方法
	栃木市ホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・令和2年度からの新型コロナウイルス感染症の影響で、テレワークの推進や外出自粛、にぎわいの創出を図れないという環境下にあいながら、目標達成までは至らなかったが駅西周辺利用者は増加している。市道 号線及び土地区画整理事業により駅西口改札へ通じる道路の整備、駅前広場、自転車駐輪場、街区公園1号が新設された効果は大きく、これらの利用者も多くなっている。 ・土地区画整理事業により都市計画道路や区画道路の整備が進み、また市道 号線が基幹事業として整備されたことにより、狭隘道路の目標値を達成することができた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	・基幹事業で整備された市道 号線は、幅員が拡幅され、駅前まで接続されたことから通行量が従前地の約1.6倍に増加した。市道の整備により周辺道路への交通負荷が減少し、安全・安心で快適な居住環境の形成につながっている。

○特記事項（今後の方針等）

- ・地元自治会により、駅前広場の除草作業が年に2～3回実施されており、市としても今後とも活動に協力していく方針である。
- ・目標とした通行量には及ばなかったが、新大平下駅の乗降客数は2,039人/日（R2コロナ禍）→2,452人/日（R5）と回復傾向にある。
- ・地区周辺では民間開発による宅地分譲等が進行しており、人口増加に伴う交通量増加が見込まれるため、今後、周辺環境等の状況を踏まえながら交通量調査を実施する方針である。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	2000人/日	土地区画整理事業により駅西口改札へ通じる道路や駅前広場、加えて自転車駐輪場が整備されたことで、駅西周辺利用者は増加したが、目標達成までは至らなかった。これには、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、外出自粛やにぎわいの創出を図れないという社会的要因も考えられる。
	最 終 実績値	1660人/日	
2			
	最 終 目標値	30%	土地区画整理事業により都市計画道路や区画道路の整備が進み、また市道 号線が基幹事業として整備されたことにより、狭隘道路の目標値を達成することができた。
	最 終 実績値	30%	